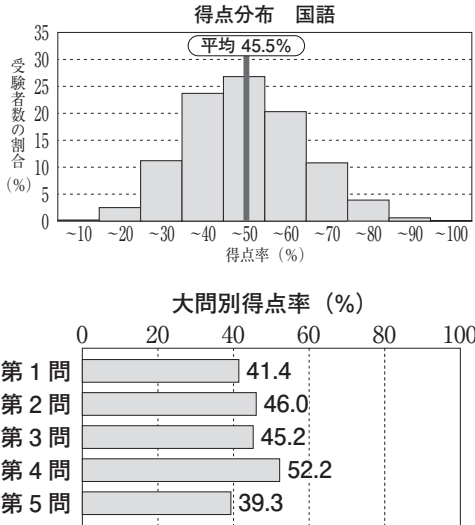


高校生になって初めての模試はどうであっただろうか？ 国語も少しずつでも勉強を開始しよう。

I. 全体講評

「第一回4月共通テスト対応高1模試」の結果はどうであっただろうか。今回の平均点は、九〇・九点（二〇〇点満点）であった。高校生になったばかりの4月の段階であるので、まだまだ十分に成績を伸ばす余地がある。ぜひここから、次に向けて、着実に得点を伸ばしていけるよう、



勉強を進めていってもらいたい。

第1問の記述問題については、得点率が六〇字記述の問1が四九・三％、三五字記述の問2が八一・五％、一二〇字記述の問3が二五・三％であった。記述する分量が多くなると得点率も下がっている。これは〈記述力〉の問題と思うかもしれないが、それだけではない。自由に書く作文ではないので、記述量が多いということは、書くべき内容として、本文の根拠とする箇所の分量もその分、多いということなので、〈根拠とするべき箇所〉を読み取る読解力があれば、字数が長くなつたからと言って、それほど大変にはならない。今回、記述が難しかったと感じた諸君は、解答例に書かれている内容が問題文・資料のどこを根拠にしているか確認してみてほしい。もちろん、まとめる力が必要ではあるが、思うほど、記述に苦手を持つ必要がないことがわかるであろう。記述でいろいろが、マークであろうが、読解力をつければ対応できるのである。

第2問の評論、第3問の小説は、どちらも四五％程度の出来であった。中学生までの文章と比べると同じ現代文といっても分かりにくく、特に評論は何をいつているのかよくわからないと感じた諸君が多かったであろう。だが、実は評論は自分の言いたいことをわかってもらうために書かれた

文章であり、わかってもらうために書かれているので、筋道を立ててきちんと説明されている。その説明の筋道を押さえて読んでいけば、必ずわかるように書かれている。現段階では、まだ、この筋道をおさえて読むということは出来ない諸君が多いようだが、受験を意識した場合、その筋道を押さえて読む、「評論の読み方」というものを身につける必要がある。一年生なので、英語や数学の勉強をメインに考えている諸君は多いと思う。もちろんそれで構わないが、現代文の読解力をつけるには、体力と一緒にそれなりに時間がかかる。少しづつで構わないので、現代文についても、勉強スケジュールに組みこむようにしよう。

第4問の古文、第5問の漢文だが、古文が五二・二％、漢文は三九・三％であった。まだ、高校生になったばかりで、古文や漢文はあまり勉強ができていないのである。特に漢文については、まだ句法についての勉強は進んでいないことを考慮して、「書き下し文」での出題としたが、それでもなかなか難しかったようである。今後は、漢文についてはまず、おもな句法を覚えるようにしてもらいたい。漢文はとっつきにくいと感じる高校生は多く、二年生・三年生でも苦手とする先輩は多いのだが、実は、おもな句法を身に着けると、漢文は古文よりもだいぶ楽に得点ができるよ

文章であり、わかってもらうために書かれているので、筋道を立ててきちんと説明されている。その説明の筋道を押さえて読んでいけば、必ずわかるように書かれている。現段階では、まだ、この筋道をおさえて読むということは出来ない諸君が多いようだが、受験を意識した場合、その筋道を押さえて読む、「評論の読み方」というものを身につける必要がある。一年生なので、英語や数学の勉強をメインに考えている諸君は多いと思う。もちろんそれで構わないが、現代文の読解力をつけるには、体力と一緒にそれなりに時間がかかる。少しづつで構わないので、現代文についても、勉強スケジュールに組みこむようにしよう。

うになる。ぜひ、この模試をきっかけにして、7月に実施される、「高1レベル模試」に向けて、おまな句法の習得を目指そう。なお、次回からは、漢文も書き下し文ではなく、漢字で書かれた文章になる。勉強の成果がはっきりと表れるので、そのつもりで勉強をしていってもらいたい。なお、古文については**古典文法、重要古語**を身につけることが重要である。まずはそこからはじめよう。

II 大問別分析

第2問 (評論)

資料を含む科学的な内容の文章の把握に慣れていこう！

共通テスト対応のはじめての模試で、まだまだ対策がしっかり立てられていないため、得点率が四六・〇％で、五割を下回り、従来のセンター試験の評論にくらべると、かなり低い結果になった。

複数の資料を利用しながら文章の読解をする作業は、高一生にとっては、煩雑であり、時間が不足したのかもしれない。とはいえ、内容的には従来のセンター試験にくらべ、やや易しめの設定をしているのだから、もう少し得点を獲得してもらいたいところであった。

問1は「供給サービス」「調節サービス」というなじみのない概念の理解をみる設問だが、前者は問題ないが、後者では選択肢①②③を正解に選んだ人もいた。いずれも基盤サービスに含まれ

る。

問2の正答率は二七・九％と低く、④⑤の誤答が多かった。「文化的サービス」の概念は「伝統や文化的な活動、精神的な活動などに関連する生態系の恩恵のことで、非物質的なサービス」とあり、「生物多様性」はその定義に含まれていないことを確認すれば、解答は容易だったはずだ。

問3は二つの正解を選んで始めて得点になる設問で、正答率は二一・〇％で全問中最も低い結果となった。生物や生態系が自然を調節していることが調節サービスのポイントであり、生態系の働きによるものが人間に利用されていることが、供給サービスのポイントになる。図1-1と表1-2から具体的なイメージをつかんでほしい。

問4の正答率は五七・七％で、まずまずの出来である。とはいえ、選択肢②とした答案もみられた。直感的に判断するのは避けたい。

問4の正答率は、四二・二％とまずまずの結果であった。誤答の多かった選択肢④では、「の結果」変化している」という因果関係に注意しただい。

問5の正答率も五〇・四％と、五割を超えており、全文の内容の把握が求められる設問としては、一応は評価できるラインに達している。予想通り、選択肢⑤の誤答が目立ったが、金額に換算してどれほどの価値をもっているかということと、復旧にどれほどの費用がかかるかということとが微妙に異なる。

第3問 (小説)

登場人物の心情に注目しつつ、ストーリーの正確な展開を把握しよう！

今回の第3問小説問題は、登場人物の複雑な背景や微妙な心理が描かれ、ストーリーの奥行きを感じさせるものだったが、得点率が四五・二％で高一生にとっては難しかったようだ。登場人物の心情把握において、本文の細かな表現を見逃さず、選択肢の言葉と一致するかどうかを正確に見極めていく眼が要求された問題だった。

言葉の意味を問う問1の問題では、ア・ウの正答率が高く八割近くあったが、イの「冷水を浴びせる」については四割に達せず、言葉自体を知らなかったか、あるいは間違った意味で覚えていた人が多かったと思われる。これを機に正確に意味を覚えておこう。

問2以降の本文読解の問題では、正答率が六割を越えたという設問はなく、問3の五二・八％が一番高かった。逆に最も低かったのは問5の二七・四％だったが、この設問には確かに誤答しやすい要素はあったものの、冷静に読むなら「それは違う」という部分があり、判断の的確さが要求されていた。間違えた人は、どこが違っていたか、解説で確認しておくこと。次に正答率が低かったのは問2で、三七・六％だったが、紛らわしい選択肢が他に二つあり、最後まで答えを絞られなかった人が多かったと思われる。問6の表現と構成に関する問題では、不適当なものを二つ選ぶ問題であったが、二つとも選べた割合は五割には達していなかった。表現技巧や文法的なこと

を問う問題でもあり、正解した人はそうした知識を持ち合わせていたということでは評価できるだろう。不正解者はこれを機にそうした知識もストックしてほしい。また、選択肢⑥は全体構成を説明しているが、これを誤肢とした人が三三・七%もいたが、この文章では場面転換ははっきりしている。全体を把握することを意識して問題文を読むようにしたい。

今回の問題は少々難しいと思った人も多いだろうが、ここからの積み重ねで、実力をアップしていこう。

第4問 (古文)

出題形式に動じずに、解説文をヒントとして読解に役立てよう！

『伊勢物語』とその解説文から、藤原氏の繁栄に対する業平の批判精神を読み取る問題で、大学入学共通テスト形式を意識した出題である。高一生全体の得点率は五二・二%で、解説文に助けられたこともあるのか、健闘している。

問1は語句の解釈の問題で、(ア)「なさけある人」は、現代語のように「思いやりのある人」と答えた誤答が五割もあり、正答率を越えてしまった。「風流を解する人」は三割程度の正答率であった。(イ)は疑問の「など」、指示語の「かく」がポイントで、正答率は六割を超え、よくできていた。

問2は品詞を問う問題で、正答率は七割に近く、よくできていた。誤答が多かった③は、cの助動詞を助詞、dの形容動詞を形容詞と答えたも

のである。活用の有無や活用の仕方については、自信をもって答えられるよう、理解と暗記をしよう。

問3は主語把握の問題で、古文で主語を把握するのに知っておきたい注意点が解説で太字になっているので見直しておきたい。正答率は五割に近く、健闘していた。歌を詠んだのが業平であることは七割以上の受験生が読み取れていた。一方、宴の主催は行平であり、これは解説文にも書かれていたが、見落とされていたようである。

問4(i)は和歌の藤に象徴される、藤原氏の繁栄を読み取る問題で、六割を超える正答率でよくできていた。誤答でやや多かったのは、藤原良近の権力に限定した②で、それだけでは不十分である。過不足なく指し示すものを捉えよう。

問4(ii)は業平の歌に読み取れる藤原氏への称賛⑥と皮肉②の二様の意味を読み取る問題で、それぞれ四割と六割の正答率であった。三割近い誤答があった③と④は、恩恵にあずかる同族藤原氏のみへの感服や、羨望の内容となっており、業平の計算された批判精神からは離れてしまう。

問5は本文の結末にあたる人々の心情説明の問題で、正答率は四割を切った。藤原氏への批判精神を感じたが、称賛であると言い切った業平を批判できなくなってしまうことに注目する。単に意味が分からず、解説を聞いて納得したとする①への誤答が二割もあり、もう少し解説文を丁寧に読解しておきたい。

第5問 (漢文)

語彙や句法に注意しながら、比喩との関係について整理し、筆者の主張を読み取るよう！

道家である莊周『莊子』からの出題で、得点率は三九・三%と苦戦した。莊周がしたたとえ話は何を意味しているのか、その同質性に注意する。

問1は漢字の意味の問題で、(ア)は「往ク(ゆく)」、(イ)は「対(こたフ)」であり、どちらも読めなくてはいけない重要な語彙である。それぞれ六割と五割の正答率で、よくできていた。送り仮名をヒントにして解いているよう、(イ)は④「耐ふ(たフ)」と答えた誤答が二割ほどあった。

問2は語句の解釈の問題で、AもBも五割の正答率であった。Aは文脈の中で「可なり」が何を意味するのか読み取る問題で、Bは重要語「子(し)」や、「何為る(なんすル)」など語彙や句法がポイントとなっていた。Aは「できる」と答えた誤答①が四割弱あり、正答率にせまっていた。Bは「子」が「あなた」の意であることは七割を超えて分かっていたが、「何為」の知識は不足していたよう、誤答①「どこから」と答えた解答が二割もあった。

問3は、救いを求める鮒魚が何を求めているのか問う問題である。「斗升の水」が少量であることや、「我を活かす」が水を与えることだとわかっていたのはそれぞれ五割弱で、組み合わせると正答率は三割になってしまい、誤答も分散した。急場だけでもしのぎたいという切羽詰まった状態であることを読み取る。

問4は、指示語「此」の内容説明の問題で、これも三割程度の正答率であった。荘周の会話を受けて怒っているのが、①・②は選べないが、②は正答率にせまる三割ほどの誤答があった。助け方が悠長すぎて、緊急事態に対する対応としてそぐわないことを訴えているのである。

問5は、返り点の付け方の問題で、知っているればできる知識問題であるが、これも三割程度の正答率しか得られなかった。一字返読するだけの場合はレ点を用いるが、一・二点の続きを振ってしまっている誤答①・④はあわせて三割もあった。

問6は本文の内容・表現についての説明の合致問題で、適当でないものを選ぶ。これも正答率は二割を超える程度で、誤答も分散した。正答となる④は格言を利用した深読みとなっており、本文から読み取るには言い過ぎである。あくまでも本文という土俵から逸脱して読解してはいけない。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆基本的な知識を身につけ、勉強を進めよう。

大学入試の国語で高得点を取るためには、相当高度な読解力が必要で、知識だけを問う問題は限られている。しかし、知識を十分に身につけて、読解に取り組まなければ、古典はもちろんだが、現代文でも点が取れない。確実に国語の力を付けるためには、一年生のうちに基礎知識のある程度固めておくなくてはならない。現代文の語彙、古典文法・重要古語、漢文の句法についてはおろそ

かにせず、早めに身につけてしまおう。

実は一年生の段階で、国語の勉強がきちんと出てきている生徒は多くない。と、いうことは、この時点できちんと国語の勉強ができれば、圧倒的に有利になることは間違いない。国語は現段階で大量にやる必要はない。少しずつでよいので、確実にやり、進めておくようにしよう。